



## ウガンダのムベンデ県にてレモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業

### 活動 1.8 子どもを対象とした環境破壊や濫用の監視・報告の自発的な行動を促す研修

#### 日時と場所：

No	日時	場所
1	18/09/2018	キバリング小学校
2	20/09/2018	ルワウナ小学校
3	22/09/2018	ブワタ小学校
4	24/9/2018	ムグングル小学校

#### 概要：

上記の対象校にて、自発的に環境保全に取り組む行動を促す研修を実施した。各学校で40名ずつの生徒を研修の対象としたが、学校側としては上級生（5～7年生）の全員を参加させる事を希望していた。地球環境基金(JFGE)と Global Bridge Network (GBN)からの支援を受け、合計160名の生徒に研修を実施した。研修を受けた生徒達は他生徒を代表して積極的に環境保全に取り組む事が期待される。

#### 研修の目的：

環境保全について生徒達が特定の知識を身に付ける事が研修の目的である。また、環境保全に関する既存の法律や規制について生徒達に理解させる事も大切である。研修を受けた生徒達は、将来的に、湿地や森林地帯の不適切な利用、廃棄物投棄などの環境濫用について報告できるようになり、環境破壊について警鐘を鳴らす役割を担う環境に優しい住民へと成長していくことが期待される。

#### 参加者：

場所	男子/他	女子/他	合計
キバリング小学校	20名	20名	40名
ルワウナ小学校	20名	20名	40名
ブワタ小学校	20名	20名	40名
ムグングル小学校	20名	20名	40名
合計	80名	80名	160名

### ファシリテーター：

本研修は下記の SORAK のメンバーが主導となり実施した。

1. ムフムザ アドルフー M&E（監視・報告）責任者
2. フローレンス ナカアイー ムピギにある JOY という NGO からの参加者
3. マーティン マファビー SORAK 財務責任者

### 活動内容：

以下の内容について生徒達に指導した。

1. 研修を受けた生徒160名は、環境破壊の監視・報告を通じた環境保全を積極的に実施できるよう、森林燃焼（焼き畑）、廃棄物投棄、森林伐採、湿地の不適切な利用など、日々の人の手による無責任な行動が引き起こす環境破壊について、どこへ、どうやって、どのように報告すべきかを学んだ。研修を受けた生徒達は、環境破壊が引き起こされる問題を報告できるような、環境保全の活動家として行動できるようにする。
2. 研修を受けた生徒達に、（前期のプロジェクトで立ち上げた）他校16校それぞれ環境保全クラブが設立された事を知らせ、各学校で展開しているクラブ活動の進捗をフォローさせる。
3. 学校、そして地域に根差した環境保全活動について学び、将来的には、樹木やレモンガラス栽培を推進するリーダーとなるよう指導をする。
4. 公の場や学校において、環境保全に関する意識啓発を行う役割を担う事を指導した。生徒達が、水、大空気、廃棄物の削減、リサイクル、生物多様性等の課題について意識喚起できるようにトレーニングを実施した。



研修を受けるブタワ小学校の生徒達。



研修を受けるムグングル小学校の生徒達。



研修を受けるルワウナ小学校の生徒達。



キバリンガ小学校にて、研修終了後、演劇を通して環境悪化の影響を表現する生徒達。

### 活動の成果：

1. ムグングル小学校にて環境保全活動として開催した環境ウォークの結果、バゲツザ準郡の森林伐採が減少した。
2. 環境保全活動家として生徒達が環境濫用の事例を報告した事で、キガンド準郡の湿地被害が減少した。
3. 生徒達が、地域のリーダーと一緒に定期的な清掃活動に参加するようになった。

### 課題：

1. 学校の責任者は、なるべく多くの生徒達を研修に参加させる事を提案していたが、今回研修に参加できたのは各校 40 名であった。
2. 最も熱心に活動する生徒の中には、卒業、中退もしくはプロジェクト対象外の中等学校へ転校などにより、間もなく学校からいなくなってしまう生徒がいるという懸念が挙げられた。
3. 環境保全活動、そしてその活動家というコンセプトがほとんどの生徒達にとって初めてであったため、持続的な努力と一貫した環境保全への取り組みを確保するためにも、SORAK による密なフォローとモニタリングが求められた。

### 提案：

研修参加者から下記の提案があった。

1. 新たに導入する環境保全の課題やコンセプトについて効果的に学べるよう、より多くの生徒達が参加できるように研修を増やすこと。
2. 準郡と県の地方政府に、今回行ったのと同じような学校での活動が実施できるように支援と資金援助を求める。SORAK は周辺の学校もしくは関係のある学校へ出向

き、すばやく問題解決ができる NGO であるが、学校が主体的にこの課題に取り組むためには、政府からの支援と資金援助が欠かせない。

## **結論**

本研修は、生徒達が環境濫用の監視ができるよう訓練する環境保全活動の先駆けとなった。生徒達は、環境保全リーダーとしての新しい役割を与えられて喜んでいて、また、他校に対するモニタリング活動を通して、他校の環境保全クラブと交流し、より深くこのテーマについて知り、友達を作ったり、初めて行く地域へ足を運んだりする事も楽しみにしていた。学校の責任者も SORAK が行う能力育成が学校の生徒達全員に行き届いている事を高く評価していた。研修を受けた生徒達は、将来、責任をもって行動する指導者として成長していく事が期待できる。